



今月は友人の道徳塾の仕事を手伝ってあわただしく過ぎていこうとしています。久しぶりに徹夜をやって、一日の休みもなかった。とはいっても、昨日は隅田川の水辺のゴミ拾いの会に朝から参加して歩いてきました。4つのグループに分かれてゴミを拾いながら歩きましたが、毎年続けている方々の熱意や行動力に頭が下がる思いですそして、こういうことにはもっと広い層の人達に参加していただきたいものですね。拾える量はたかが知

れていて、参加者が多いから、みんなにゴミが行き渡らないなどということもありますが、昇り旗をたくさんひらめかして、たくさんの人の目に触れるだけでいいのですね。ただ残念なのはひっそりと水辺に集合して、水辺で解散するから、街で暮らす人の目に触れる事が極端に少ないことです。どうせなら、大きな駅前集合して、川まで旗を立ててぞろぞろ移動して、最後はまた、終着点の駅へぞろぞろ行ってから解散した方が、宣伝効果はあるような気がする。まあ、ただの移動なんだが、勝手に好きな格好をして楽しく歩けばいいですね。同じ事をするにもどうやったら楽しく、快適に出来て、効果があるかということもデザインの範疇です。

専門家が集まって何かをするということは良いようにいて、どこかにある落とし穴に気がつきづらいものですね。みんな、自分の分野に自信があり、しっかりした意見も持っているので、議論も行動もより深くなっていきますが、もっと幅広く、商店街の親父さんや、その辺でうんこずわりしている若いとか、看板屋 飲み屋、学生、などなどが生き生きと参加でききて、そんな意見を吸い上げられると意外な解決策が見つかったりする。まあ、そんなことを考えながら、浅草で飲んで帰りました。

今朝は、また昨日と同じ隅田川沿いの通カートを歩いて事務所へ出勤。朝から水上バスの乗り場がにぎやかだと思ったら、200万人乗船記念らしく、報道の人や、落語家なんかもいて小さなお祭り気分。でも、それを取り巻いている、膨大な数のホームレスの人たちには、雨にぬれながら、「そんなの関係ない。」という別世界があって、小雨を避けて、あちこちでごろごろして、じっと遠くを見つめる目がうつろです。社会というのはすべての人には幸せや公平を与えることは出来ないし、それは仕方がないからそれでいいのだと思ってしまう手もあるけれど、小さな地域社会という一人一人の顔がわかる区切り方をしていけば、お互いに思いやらねばやっつけられない話で、もうちょっといい方向が見えるんじゃないかとも思えるんです。そんな小さな社会が無数に集まった大きなパッチワークのような私達の暮らす空間が一番居心地がいいんじゃないかな。国という立派な仕組みを作って、隣の国より優れているとか、世界で何番目だとかなんていうのはどうでもいいので、みそぼらしくたって、付き合いが悪くたってかまわない。豊かな心と暮らしに溢れた小さな部分が集まった巨大なパッチワークの方がどれだけ住みよいかと、今朝 水辺の小雨にぬれながらの散策 もとい通カで、考えていました。

ニンゲンはえらくなくてもいい。温かい気持ちで生きられればそれでいいのに、群れるとどうしてそうならないのか、どうせすぐにみんな消えちゃうのにねと考える、そんな朝でした。